

## ① 第25回解剖技術研究研修会、②解剖学会企画シンポジウム参加報告

医学系部門 基礎社会医学班 中谷 宣弘

### 1. はじめに（目的等）

①は日本解剖学会学術総会に併催される研修会で、献体を取り扱う技術職員の研修を目的とし、形態学分野における技術の伝承と発展を基本理念と考え、日常の解剖技術業務に関する報告、現状の問題点等に関して意見交換を行い、今後の業務遂行に役立てることを目的としている。②は総会プログラムの中の一つで、献体に携わる技術職員に関係の深いテーマであると思われたのでこれに参加し情報収集を行った。

### 2. 期間・場所

期間：2024年3月20日（水）～22日（金）

場所：沖縄県那覇市①沖縄県市町村自治会館 ②那覇文化芸術劇場なは一と

### 3. 参加者等

①各大学の解剖学技術系職員 約40名 ②解剖学講座教員、技術職員、事務等約100名

### 4. 研修内容

①では献体処置に関する新しい施術の紹介や、昨年発行した解剖処置マニュアルの中から二つテーマを選んでの討論などが行われた。私は会の会計幹事を担当しており、会場準備、会費の徴収と集計、終了後の会場後片付けも行った。②は解剖学会の企画シンポジウムの一つで、ご遺体を用いた解剖学教育の現状について教員、技術職員、篤志会員それぞれの立場からの報告があり、それを聴講した。

### 5. まとめと感想

①で行われたいくつかの発表のうち、特にご遺体の防腐処置に関する新しい方法の紹介が大変参考になった。近年、医師の手術訓練としての解剖実習が行われているが、学生用のご遺体とは処置方法が異なり共有する事はできない。しかしそれを可能にするアイデアが報告された。本学でも可能かどうか、今後の検討事項として持ち帰った。②では解剖教育とそれを取り巻く現状について報告がなされた。近年、いくつかの大学で献体処置に関する大変大きな事件が立て続けに起こり、大きな問題となっている。これを受け、失った信頼を回復するため、あるいは社会への更なる周知についての各大学での取り組みなど色々な立場の

人から報告がなされた。本学では取り組んでいないようなきめ細かい対応やシステムも紹介され、非常に参考になった。本学では献体に関する事務は献体事務局所属の事務職員が行っており技術職員は関与していないが、参考になった話題は持ち帰って担当者と共有したいと思った。